

# 倶楽部-Kounotori

## いよいよ夏本番！ みなさんお元気ですか

長かった梅雨が明け本格的な暑さの始まり。信州はお盆になるといきなり涼しい風が吹いてきますが、短いながらも夏は夏らしく過ぎて欲しいものです。さて、創刊号は発行2ヶ月で350部を印刷致しました。多くの皆さんが手にして下さった事とてもうれしく思います。今回はそんな皆さんの感想も多く載せさせていただきます。皆さんによって作られる**倶楽部-Kounotori**です。

## HEART to HEART

相談室でお聞きするお話の中から是非みなさんと共に考えたり分かち合えたらいいと思う事をお伝えしていくコーナーです。今回は前回に引き続いて仕事と治療の両立PART2です。

### 『 頑張り神話 ～二度の流産の体験から～ 』

**Sさん**のご紹介

1969年生まれ35歳。体育教師。学生時代に選手として活躍した経験を生かした部活指導では好成績を収める実力校となる。当院での治療歴は2年。

**結婚したら子供は自然に出来るものと思っていた**

私は中学校の教師をしています。専門の教科は体育です。休日のほとんどを部活指導にあて現役の学生と同じ様に動き回っています。この仕事について12年。しんどい時もありますがそれなりに何とかやってきて頑張り屋さんを自負しておりました。結婚して9ヶ月目。市販の検査薬で妊娠反応＋。しかしすぐに病院へ行っても仕方ないと思い様子をみようといつも通りの仕事をしていました。しばらくして出血がありインターネットで調べた所着床時には多少の出血も有り、なるほどそう言う事かと自分で納得しそのままにしていました。しかし職場の先輩に話しをしたらすぐに受診した方がいいと言われ近くの病院へ。なんと結果は子宮外妊娠でした。退院して元の生活に戻ったものの、卵管が狭くて受精卵が引っかかってしまったのかも知れないという医師の言葉が気に入り、これからの妊娠への不安から諏訪マタニティーに検査の為に通う事にしました。そして2年の月日が経ちました。結婚したら子供は自然に出来るものと思っていたのに・・・。

**弱音を吐くな、頑張れ自分と励まし続けた毎日**

そして今年の3月末に2度目の妊娠反応。前回の事もあり、無理は禁物・油断大敵のはずだったのですが、なにしろ教育現場の年度末・年度始めというのは戦場同然。特に今年は忙しく職員の移動による引き継ぎやら新年度準備、1年で1番に迫られる時期。どうにも代わりがない現実、仕方がない「一週間」という期限をつけこの間に何とか仕事のメドをつけよう、そして皆に話をして診察に行こう、そう決めました。しかしこの業務の他にいつも通りの部活指導。30分の通勤時間は何時間にも感じられ、信号が赤になる度にハンドルにもたれかかっている始末。体力、気力共に限界点になっていたけれど「一週間って決めたじゃない、いつもだって何とか頑張れているんだ、弱音を吐くな、頑張れ頑張れ」目標の一週間をあさってに控えた日、またもや出血。急いで診察へ、子宮には何も見えずに初期の流

産だろうという事でした。初期の流産はほとんどが受精卵の問題だからこれはどうしようもないと先生が説明をしてくださるも、医学的にはそうかもしれませんが私にはどうしてもそう思っではいけない気がして仕方有りませんでした。

**大事にしていくものに優先順位をつけていく**

ぼっかりと心に穴が開きました。私は一体毎日何をしていたのだろう?何を頑張ってきたのだろう?あの生活、あの状態での妊娠発覚。他の職員に迷惑や負担をかけてはいけない、部活の子供達もきちんとみてあげなければいけない、だから必死でやっていたのだけれど、それはひょっとして私自身の自己満足ではなかったのかと。あの頑張りの結果により今逆に皆に心配をかけている。私が頑張らなければならなかった事、それはお腹に宿ったあの小さな命を大切に守る事……。少しでも何かお腹を労り配慮する手段をこうじていれば、例えそれで結果は同じでもこんな思いはなかったのでは。頑張り神話は崩壊しました。3日の部活を2日に減らしても中身を充実させるとか、ふんばりきれない時しんどい時は、誰かに助けを求めるとか、そんな事を口にする勇気を持つのも必要ではないかと思いました。治療と仕事、それぞれが自分にとっては大事な事です。ならば両立の為には、時に頑張り所の視点を変える事、優先順位をつけて折り合いをつけながらやっていく事が大切ではないか、そんな気がします。あれから2ヶ月。3年生の最後の大会で一冬全てを注ぎ込んで練習した我がチームが優勝を果たしました。「熱を入れて休日もなく練習しての優勝も嬉しいけれど、先生に子供が出来た報告は、みんなもっと嬉しいと思うよ」そんな言葉に勇気づけられ子供達の喜ぶ顔を励みに治療も新たに頑張りたいと思った私です。優勝より妊娠の方が大変！?かな。



ちょっとお茶でもいかがですか？  
日頃皆さんの思っている事やつぶやきをのせていくコーナーです。今回は5人の方に原稿を寄せて頂きました。

### ✿ Y・Sさん ✿

N・Hさんの文章(創刊号)のように、体外受精の一連の流れの中ではハードルがいくつもあって、とりあえず一つ一つにドキドキしながらも移植に向かう。しかしそこからの二週間の辛さ。ややおとなしくと言ってもそのややの加減が分からない。体外受精をして妊娠した人たちはどう過ごしていたのかとても気になる。生きている卵が戻されるのだから着床しようとしまいとその期間は妊婦だと思って暮らしたらと以前かかっていた病院のスタッフに言われた事があるが、そんな気持ちで過ごせたらばどれ程いいか。いつでも結果に対して夫婦共々に"転ばぬ先の杖"でいるのだが、結果を聞いてから次の周期へ、それはスパイラルにでもとりこまれているような感覚。次はいいかも、次はいいかもと。治療者同士では凹みの部分で大いに共感できる事もあるけれど、そこへ至るまでの経過が違うから、やはり思いはそれぞれだと思う。Yさんの文章(創刊号)にもあったが夫婦が二人の道として通じ合えて頑張れるか、そして信頼できる施設との出会い、私もこれが大切な事だと思う。女の身体には限りがある。だからいつかは引かなければいけないその線がくるまでは後悔ないようにトライしていこうと思う。

### ✿ Y・Sさん夫 ✿

この新聞について夫婦で一時間話し合った。私達夫婦の場合、日常生活の中でも何故、何のために自分達は生きているんだろうと真剣に話し合う事があり、そんな風に夫婦での向かい合いが常あるからこそ、この辛い治療もやっていかれてるのではと感じてる。N・Hさんの文はまるで我々の鏡の様。自分達が考えている事と全く同じでびっくりした。不妊の問題は妻に比べて夫、男性側の気持ちなどが軽視されがち。夫だって大変なんだと声に出したい気持ちがある。妻のフォローの仕方や平常心の保ち方など、他の方の意見も聞きたいし先生にも聞いてみたい所。不妊の原因は人それぞれだとは思いますが、原因が不明の場合でもどちらかあるとはっきりしている場合でも、とにかくパートナーや家族で立ち向かっていくべきだと思う。

### ✿ N・Yさん ✿

**倶楽部-Kounotori**を読んで胸がいっぱいになりました。私なんかよりずっとずっと悩んでいる人は本当にたくさんいてみんなが一生懸命がんばっているっていうことがすごく伝わってきて涙が出てきました。

私は現在32歳、結婚して5年になりますが子供がいません。以前は自宅から近い病院に通っていましたが、自分の中で少しずつ病院に対する不信感が積もっていつて悩んでいました。薬も注射も何もわからないまま治療を受けこの先どうなるんだろう、気持ちが焦り不安でいっぱいでした。藁にもすがりたい気持ちでインターネットで不妊治療について探していたとき諏訪マタニティークリニックとこのとり相談室のことを知りました。前もってメールにて自分の身体と心の状態を伝えておき来院への準備をしました。

5月3日、休診日であるにも関わらず大勢の患者さんが来ていました。相談室でお話をする約束にもなっていたので診察の前に先に相談室へ入る事になりました。通されたそこは、寒い身体をそっと温めてくれるようなそんな雰囲気でありました。不安に押しつぶされそうになり眠れなかつたり不安定のあまりに突然泣きだしたくなっていた日々の事、職場で妊婦さんを目にするとやりきれない気持ちでつい避けるようになっていった自分。全てを吐き出しました。今まで心の中にたまって固くなっていたものを丁寧に、ゆっくり溶かしてもらった時間になりました。その後の診察では先生や病院のスタッフの方々も本当にやさしく接して下さり、すごく親身になってくれるんだと思ったら安心してここで治療を受けていけると強く思いました。それからの私は少しずつですが前向きに、今の自分と向き合っていくことができるようになりました。会社の上司、同僚へ思い切って治療について話しました。話すまではすごく怖かったのですがみんな理解してくれました。また、自分の両親、主人の両親にも今まで5年間触れなかったけれど、子供ができていく体だということを話しました。

主人との関係も以前よりもっと信頼し合えたり、お互いを思いやったりできるようになりました。今まで焦っていた自分が、今は、今そこにあるハードルを2人で手をつないでひとつずつ越えていこうって思えるようになりました。これからの治療には、いくつも超えていかなければいけない事があると思いますが神様は超えられないハードルは与えないような気がします。最後まで諦めず、かわいい赤ちゃんをだっこのできる日を夢みてがんばっていこうと思います。

### ✿ H・Mさん ✿

私が諏訪マタニティーで治療を始めるようになってから数年が経ちます。先生を始め、スタッフの方々には毎回良くしていただきとても感謝しています。数年間の治療の中で私は初期流産の辛い経験を何度かしています。流産を繰り返す中で、"自分の気持ちを誰かに聞いてほしい、わかってほしい、これから自分はどうしていったらいいんだろうか"と色々な思いが頭を廻り、いつも話せるのは主人だけ、夫婦でそんな思いを抱えての通院でした。ところが今回の治療周期で相談室の存在を知りすぐに

寄りたくなりお邪魔しました。今までのいろんな思いを途切れる事なく涙と共にどんどんと話してみたら、全てを受け止めてくれて、心の重しがとれていくのを感じました。そしてその後も受診の度に寄ってその時々の思いを話し帰っていました。私達は遠方より通院しているのですが、最近主人にこんな事を言われました。帰り道の運転が眠くなって仕方がないと。今までの道中は、思うようにいかない苛立ちや辛さや悲しさを主人にぶちまけていてたのですが、そう言えば最近は黙って音楽を聞いているか居眠りをしている私・・・。なので相槌を打ったり返事を返す必要のない夫は眠くなる。(笑)人は心にゆとりができると変わるんですね。そのゆとりをくれたのが相談室だったと思っています。今回は移植せずに凍結卵という形になり残念でしたが、今までの様に悶々と悩まずにお祭り好きな私達の為に7月は二人で楽しむ時間をベビーが与えてくれた様に考えられました。相談室があればまだまだ頑張れる!そんな嬉しさを皆さんにもお伝えしたくて主人と共同作業でこの原稿を書き送らせていただきました。これからもよろしく願いいたします。

### ✿ A・Iさん ✿

「4人家族」この言葉は私にとっては大きな壁であり又夢でありました。日常の忙しさに紛れて忘れてしまっていたあの頃の思いを、ふと手にした**倶楽部-Kounotori**に思い返す事ができそれを相談室で話した事がきっかけでここに原稿を寄せる事になりました。結婚すれば子供は自然に出来るもの、そう思い込んでいたのですがいっこうにその気配はなく、そのうちに私達夫婦の場合は自然妊娠は無理だという事がわかりました。治療中は検査の結果が良くなって落ち込んだり周囲からのプレッシャーに押しつぶされそうになったり、大変な事、悲しい事、色々な事がありました。そんな時に、ごくごく普通に見かける家族の姿。お父さんお母さん、そして子供二人。どうして、そしていつまで、私は夫と二人家族なの?4人という家族像が意識されたのがこの時でした。日々の治療はベストを尽くしている訳だしとにかく諦めないぞと夫と共に治療を続けてきました。治療期間とすればそれほど長くは無かったかも知れませんが、それでも自分達には長かった。そしてついに治療の甲斐あって我が家にこのとりが飛来してきてくれました。4年後にもう一度治療を受け妊娠。私は夢の「4人家族」となる事が出来たのです。治療中の皆さん、いつ終わるとも知れないこの治療ですが、どうか夢を諦めずに頑張ってください。私の治療している頃は相談室は無かったので今は幸せですよ。体験者として陰ながら心からのエールを送ります。フレーフレーフレー！！